

平成 20 年度

《第 4 回》

# 国語

時間 50 分、100 点満点

## 受験上の注意

1. 解答用紙には、受験番号・氏名を記入してください。
2. 解答は、解答用紙の所定のところに記入してください。記入方法を誤ると得点になりません。
3. 試験終了の合図とともに、解答用紙・問題用紙とも提出してください。

郁文館中学校

一、次の文を読みあとの問い合わせに答えなさい。

わが国ほど豊かな自然に恵まれた国は少ない。しかも、四季のめぐりにしたがつて、自然是変化に富んだア<sup>ア</sup>装いをみせる。歐米の家に<sup>\*</sup>バイブルがあるように、<sup>\*</sup>歳時記が多くの家にあるのは、驚くべきことだ。ウサギ小屋と<sup>a</sup>揶揄される小さな家にも庭があり、部屋には花が生けてある。日本人は世界の数ある民族の中でも、すぐれて自然を愛好する民族だと思っている人が多い。しかし、これは半分は正しく、半分は間違つてゐると思う。子どもの教育や人間のイケンゼンな生活には、自然と親しむことが大変重要であるが、そのような教育がなされているだろうか。残念ながら、非常に不十分と言わざるをえない。和末半島の原生林の伐採が強行されて、ノマフワコウボウヅバツの危機にさらされる。

残された唯一のブナの大原生林である白神山地の伐採計画が進められている。石垣島の自保の珊瑚礁が破壊されようとしているなど、大規模な自然破壊をあげればきりがない。国内だけでなく、熱帯雨林材の大量消費により、世界中から非難を浴びているのは<sup>エ</sup>シユウチのことである。すべて経済優先の考えに基づく暴挙であるが、もつと根本的には日本人の自然観に基づいている。

①日本人は自然保護の思想が貧困だといわれる。なぜそうなのかを少し考へてみたい。一言にしていえば、日本の自然が豊かすぎるからである。国土面積の森林被覆率は七〇パーセント弱、これは森と湖の国フィンランドに匹敵する世界。有数の森林国といえよう。木材の国カナダといえども森林被覆率は三三パーセント、ドイツやフランスで二七パーセントだから、②日本は大変な森林国である。それに種類も多い。フィンランドへ行つてみると、どの森へ行つても間に合う。わが国は、世界でも有数の天災多発国だ。毎年台風が襲来して草木をなぎ倒し、そこここ

わが国は、世界でも有数の天災多発国だ。毎年台風が襲来して草木をなぎ倒し、そこそこで洪水が起くる。地震や火山の噴火で山は崩れ、山火事で全山が燃えつくることもある。しかし、しばらくするとススキや笹が生え、ついで低木や松の緑が破壊された地肌を覆つてしまふ。日本の森は、壊れても焼かれても復元する強靭さをもつており、世界中でも最も回復力が強い森だといつてよい。

清い水と豊かな緑に覆われた自然の中で育った日本人には、それを保護しようなどといふ考えが生まれようもなかつた。<sup>③</sup>どんな災厄からも立ち直る不死鳥のような自然、それはちつぽけな人間の力をはるかに超越した不動の存在で、人間を守りこそすれ、人間に守

われるものではありなかつた。大野晋氏によると、大和言葉には「自然」に該当する言葉は見当たつないといふ。現在われわれが使つてゐる自然といふ言葉は、ネイチャーの訳語である。親鸞の末燈抄に「自然といふは、もとよりしからしむといふことばなり」とあるように、オ<sup>ガ</sup>自<sup>リ</sup>づから然り、つまり、あるがままにあるものとして自然は認識されてきた。人々は自然との一体感の中で、四時のうつろいに身をゆだね、もののあわれを感じとり、いのちはかなさに思いをいたした。ヨーロッパの森は日本のそれとは違ひ、人為に対してもろくて弱い。農耕牧畜が始まって以来、ヨーロッパの森林は破壊し続けられ、ほとんどなくなつてしまつた。自然是人間の対立物としてとらえられ、人間によつて支配されるべき対象であつた。自然破壊の極致に至つたとき、自然は管理し保護しなければならないという思想が生まれる。プロシヤで自然保護という言葉が誕生するのは、わずか二〇〇年前のことである。

日本人にとつては、自然は人間の（－A－）でもなく、ましてや（－B－）する対象でもなかつた。空氣や水と同じく、人間をとりまくごくあたりまえのものであつた。人間の力ではびくともしない豊かな自然、それがここ二〇年の間に巨大な破壊技術の進歩によつて、急激に壊されはじめたのである。しかし、まだ日本人の心の奥には、自然は無限に豊かで、不落の城であるかのような印象が根を張つてゐる。この状況が続ければ、（5）かつてのヨーロッパがそうであつたように、否もつと恐ろしい形で日本の自然が破壊しつくされるであらう。そうなればもはや取り返しがつかなくなる。今のうちに自然保護と愛好の思想を育てなければならぬ。

問一 波線部ア～オのカタカナは漢字に改め、漢字はその読みを答えなさい。

問二 二重線部 a b c の言葉の意味として適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

a 挪揄される  
ア たとえられる イ からかわれる ウ 間違われる エ 見立てられる

b 匹敵する  
ア 肩を並べる イ 敵対視する ウ 追い越す エ 手本にする

c 有数の  
ア たくさん イ 有名の ウ 限りない エ 数少ない屈指の

問三 傍線部①「日本人は自然保護の思想が貧困である」とありますが、その理由について述べている部分を本文中より十五字以内で書き抜きなさい。

問四 傍線部②「日本は大変な森林国である」とありますが、日本の森はどのような森だと考えられますか。本文中より十五字以内で書き抜きなさい。

問五 傍線部③「どんな災厄からも立ち直る不死鳥のような自然」とありますが、これを説明している連続する三文を本文中から抜き出し、はじめの五字を答えなさい。  
(答えに句読点が必要な場合のみ字数に含めなさい。)

問六 傍線部④「四時のうつろい」と同じ意味で使われている表現を本文中より六字で書き抜きなさい。

問七 ( ) A・B にあてはまる語句を本文中から書き抜いて答えなさい。  
ただし、Aは三字、Bは二字とします。

問八 傍線部⑤「かつてのヨーロッパがそうであつた」とありますが、かつてのヨーロッパの状況を説明した一文を本文中から抜き出し、はじめの五字を答えなさい。  
(答えに句読点が必要な場合のみ字数に含めなさい。)

問九 次のア～オの文で、本文の内容に合うものには○、合わないものには×をつけなさい。

ア 日本人は、皆すべてが自然を愛好していると言つても過言ではない。  
イ 日本の森は、天災が多い中にあつて破壊されても自然に復元される。  
ウ ヨーロッパでは、自然是人間が支配しうるものだと考えられていた。  
エ 日本の自然是、いつまでも無限に豊かなものであると考えられる。  
オ 日本人は、自然に対する考え方を見直し、接していくかねばならない。

二、次の文を読みあとの問い合わせに答えなさい。

【主人公の私（うつちゃん）は、しーちゃんという親友がいたが、しーちゃんは病気で亡くなつてしまふ。その後、私は一度だけ願い事を叶えてくれるという「いっぺんさん」にもう一度しーちゃんに会いたいと白い石（いっぺんさんへの願い事がかなうというお守り）にお願いをしていたが、弟が事故で倒れてしまつたため、その願いを取り消し、弟が助かるようにお願いを変更した。】

「道を開けてくれえつ！子供が大変なんだ！」

父は車の窓から身を乗り出して何度も叫んだが、何のアコウカもなかつた。まるで私たちに意地悪をしているかのように、周囲の車はのろのろと進み、すぐに止まつてしまふ。その間にも、弟は何度も嘔吐を繰り返していた。顔色は青白くなり、体が細かく震えていた。

（助けてください！弟を助けてください！）

石の袋を握りしめる私も、<sup>①</sup>知らず知らずのうちに涙をこぼしていた。ここで役に立つてくれなければ、神様なんかいないも同じだと思つた。

その時だ。

車内のバツクミラーの中に、渋滞して止まつている車の間を縫うようにして、一台の白バイが近づいてくるのが見えた。それはあたかも、私たちのピンチを知つて助けに来てくれたように見えた。

「父さん、白バイのお巡りさんだよ！」

私が叫ぶと、父は慌てて車のドアを開け、白バイ警官に手を振つた。<sup>②</sup>警官はすぐに切迫した父の様子に気づき、静かなエンジン音を響かせながら、私たちの車に近づいてきた。

（どうしたんですか）

白バイ警官は、まだ若い青年のようだつた。黒いサングラスをかけていたので顔はよく見えなかつたが、語り口調は力強く、頼り甲斐のありそうな人に思えた。

父が<sup>③</sup>事態を話すと白バイ警官は、すぐに深々とうなずいた。

「頭を打つて、白バイ警官は突然にサイレンを鳴らし始めた。

（脳イグカのある救急病院があります。そちらまで私が先導します）

（どう言うと、白バイは突然にサイレンを鳴らし始めた。）

「急病人を搬送します。道を開けてください。ご協力をお願ひします」

警官は白バイについたマイクを使って、周囲の車に叫んだ。それまでどうしても道を開けてくれなかつた車が、しぶしぶと端に寄りはじめた。センターラインがくつきりと見え、一筋の道が出現した。白バイはその道の上を、私たちの車を先導して走つた。そして、

（まるで海を割つたという聖者のように、次々と車を寄らせて道を作つた。）

その姿は、まさしくヒーローだった。（A）、しーちゃんが憧れるのも、よくわからる。

（B）大きな病院が見えてきた。救急搬送口の前に、白衣を着た医者と<sup>ウ</sup>カンゴフ

がストレッチャーを用意して待ち<sup>エ</sup>カマえている。白バイ警官が、無線で連絡してくれたのだ。

車をその前に止めると、（C）弟は病院の中に運びこまれていつた。両親と妹は、それについて駆け込んでいった。私も後に続こうとしたが、ふと気づいて白バイ警官の方に向き直り、深々と頭を下げた。弟が助かるかどうかはわからなかつたが、少なくともこの警官のおかげで、事態が好転したのは確かだつた。

警官は白バイにまたがつたまま、私をじつと見ていて。そしてやがて、ニッコリ笑つてこう言つたのだ。

「大丈夫だよ、うつちゃん」

声こそ違うが、その口調を忘れるはずがない。<sup>⑤</sup>私は耳を疑い、次の瞬間には目を疑つた。白バイ警官の前歯は、きれいに半分ほど折れていたのだ。

「きっと治るよ。いつぺんさんが助けてくれる」

その顔は私の知っている顔ではなかつた。（D）、「私が知っているあの顔が、十歳で死ぬことなく無事に成長していたとしたら、たどり着いたはずの顔のように思えた。」

「……しーちゃん……なのかい？」

私の言葉に白バイ警官は、人懐っこい笑みを浮かべた。

「まさか、そんな」

⑥私は思わずうつむき、自分の頬を抓つた。鈍い痛みが確かに伝わり、これは現実だと

思い直して顔をあげた。

⑦私は恐る恐る掌を差し出してみた。警官は手袋の拳でそれを叩くと、同じように掌を差し出した。私はオムネがいっぱいになるのを感じながら、その掌めがけて拳を振り下ろした。

拳は、ただ空を切つた。手袋の掌に当たる瞬間、警官の姿は音もなく消えたからだ。

時間が過ぎた今、あの白バイ警官は私の見間違いだつたような気もしている。あの人はごく普通の警官で、しーちゃんの成長した姿のように思えたのは、混乱していた私の錯覚だつたのかもしれない。

けれど、もし、あの人気がしーちゃんだつたとしたらいつぺんさんは、欲深な私たちの願いを、すべて叶えてくれたのではないだろうか……と思う。

早く大人になつて、Aになりたいという、しーちゃんの夢。

死んだしーちゃんにもう一度会いたいという私の願いと、Bという、もう一つの願い。

（朱川 渥人『いつぺんさん』より一部改訂）

問一 二重線部ア～オのカタカナを漢字に直して正確に書きなさい。

問二 (A)～(D)に入れる適当な言葉を次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度使つてはいけません。

ア すぐさま イ だが ウ まだ エ なるほど オ やがて

問三 傍線部①「知らず知らずのうちに涙をこぼしていた。」とあります。その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 白バイ警官が困っている私たちを助けてくれたことがうれしかつたから。  
イ 弟が助かるよういつぺんさんにお願いしたが、役立たず悲しかつたから。  
ウ 弟の体調がどんどん悪化していく様子を見て、とても不安になつたから。

問四 傍線部②「警官はすぐに切迫した父の様子に気づき」とあります。警官を見つけた時の父の様子が最も具体的に書かれている部分を二十五字で探し、はじめの五字を答えなさい。（答えに句読点が必要な場合のみ字数に含めなさい。）

問五 傍線部③「事態」とあります。具体的な弟の様子を本文中の語を用いて三十字以内でまとめなさい。

問六 傍線部④「まるで海を割つたという聖者のように」とあります。ここに使われている表現技法として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

## 問七

傍線部⑤「私は耳を疑い、次の瞬間には目を疑つた」とあります。その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 白バイ警官の前歯が折れていて、それを見た私はびっくりしたから。  
白バイ警官が、大人になつたしーちゃんであつたと理解できたから。  
白バイ警官が私のあだなを知つていて、しーちゃんに似ていたから。  
白バイ警官がしーちゃんの真似をしていた姿がとても似ていたから。

問八 傍線部⑥「私は思わずうつむき、自分の頬を抓つた」とあります。その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア しーちゃんは死んだということを、現実のこととして受け入れようとしたから。  
死んだと思つていたしーちゃんが、生存していたことがうれしく思われたから。  
死んだと思つていたしーちゃんが、眼前に現れたことが信じられなかつたから。  
しーちゃんが生きていたのに、死んだと思つていたことが恥ずかしかつたから。

問九 傍線部⑦「私は恐る恐る掌てのひらを差し出してみた」とあります。その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい

- ア 白バイ警官がしーちゃんであるということを確認したから。  
白バイ警官がしーちゃんであることがわかり、うれしかつたから。  
エウイア 今、目の前で起こっていることがとうてい信じられなかつたから。  
白バイ警官が言つていることが、まったく信じられなかつたから。

問十  A  
・  B  
に入る語句を、Aは五字で、Bは九字でそれぞれ本文中より書き抜いて答えなさい。